

アンケート1 発達障害児支援に関する現状の取組について【他機関に対する要望】

	福祉分野への要望	医療分野への要望	教育分野への要望
伊豆医療福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に見ている児童の把握と連絡 リハビリの重複について、児発センター等と協力して棲み分けや分担が可能か。 	<ul style="list-style-type: none"> 初診待機人数減少のために、開業医の先生のトリアージ、緊急度の連絡 精神科的治療の必要な場合の順天堂大学静岡病院、沼津中央病院、吉原林間学園との棲み分け、連絡の迅速化 各病院と連携をとるためのPSWをアスタや行政等に設置 	<ul style="list-style-type: none"> 就学に際して行う知能・発達テストの時期統一（不必要な検査を増やささないため：医療にも関係） 各症例の検討の場の設定（就学検討会の様）。増加に備えて症例をグループ分けして蓄積し、類似ケースはそれを参考にすることにより省力・時短化） 外国人であるための学習障害への対応（高齢者施設でこの子たちと話すことにより、言語を増やして社会生活で必要な知識を増やすことができませんか？また、子どもたちも何らかボランテイアでできることを発見できるかもしれません。）
相談支援事業所 ベルテ	<ul style="list-style-type: none"> サービス申請時の診断書について、「同じサービスは初回のみとする、日中一時にも有効にする」など添付書類の見直しを。 診断書待ちの間、健診結果や保健師意見書によりサービスの申請は可能とするなど（現在も可能なケースあり） 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小児科で診断書を書いて頂ける病院が増えると良い。 医療機関の情報提供をどのようにしたら良いか？（どの病院が発達障害児の相談ができるか、予約状況は？などの情報が少ないので、伊豆医療福祉センターに集中してほしいのだと思う。） 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービスでの療育支援について、理解をしてもらえる機会をつくりたい。
静岡教育事務所	<p>< 韮山小学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級児童及び通級指導教室に通う児童の実態について、情報交換、共通理解を図り、必要に応じて積極的に介入 	<ul style="list-style-type: none"> ドクターが病院ではなく、他の施設や機関で受診や相談を行ってくれと、病院に行きにくい保護者や子供が行きやすくなり、診断を受けるタイミングが遅くならないきっかけ作りにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターの育成と連携 特別支援学校だけでなく、小中学校の普通学級で困り感を抱いている保護者・教職員への支援体制という意味で、連携体制の構築 幼保とは緊密な連携体制が必要

アンケート1 発達障害児支援に関する現状の取組について【他機関に対する要望】

	福祉分野への要望	医療分野への要望	教育分野への要望
静岡県 事務所		<ul style="list-style-type: none"> ・受診時に、うまく説明ができない保護者や子供とドクターをつないでくれる方（コーディネーター）がいると、受診することへの不安が軽減される。 <p><菫山小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から気軽に相談することができる体制（通院する児童の保護者がコーディネーターの役割を担っているのが現状） 	<p><菫山小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校とも、学校を挙げての特別支援教育に対する理解と取り組みの充実。（伊豆の国市では、今年度より、特別支援教育推進委員会を発足）
伊豆の国特 別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の子や個別サポートが必要な子が放課後児童クラブを利用しトラブルが多発している状況がある。 ・日中一時支援の充実を図り、保護者の負担軽減や子ども自身の自尊心を保つ状況が作られるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学についての医師からの言葉は保護者にとつてとても大きな影響力があるため、就学に関わる部分は市町の教育委員会と連携できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室は、基本は週に1時間となっているが、LDの子は算数の時間は全部通級に通えるようにしたり、宿題の出し方を工夫するなど、その子なりの学び方の保障ができるようにしたい。
伊豆市	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービスの事業所が増えてほしい。事業所と合わない子がいた場合、選択肢がない。市外の事業所もあるが、利用者が多いことから受入れが難しいと言われてしまう。 ・市内が広く、交通の便が悪いだけでなく時間もかかるため、送迎ができず市内でも利用できない場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに専門の医療機関が1つしかなく、混んでいるためタイムリーな受診が難しい。別の医療機関を受診しようと思うと遠方まで行かなければならず、時間がかかることも受診に対してのハードルがより高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学級（情緒）在籍の中学生の進路を検討していただきたい。支援学校の高等部へ進めないケースが多い。将来的に不登校、引きこもりにつながる場合もあるため、進路の選択肢が増えてほしい。 ・中学校にも発達通級があってもいいのではないか。 ・発達障害にかかる児童・生徒の支援に関して、福祉や保健、相談支援専門員の介入、連携が不十分である。学校の中で完結する傾向が考えられる。

	福祉分野への要望	医療分野への要望	教育分野への要望
伊豆の国市	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有が必要なケースには、双方の役割を認識共有し、今ままで以上に連携を図っていききたい。 ・発達障害児だけでなく、その家族に対して必要な支援(ペアレントトレーニング)が必要。親が支援方法を学べないと社会に適応していけないことが多い。 ・放課後等デイサービス事業所利用の振るい分けが必要。本当に利用したい人が空きなく利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・診断後、障害福祉サービスが必要な人には、分かりやすい説明の上つなげてほしい。また、つなぐことが困難な場合は、市に情報提供してほしい。 ・今後どのようなアプローチの方法をとっていくのかも相談させていただきたい。 ・発達障害児がタイムリーに受診ができてほしい。 ・連携を取りやすくしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に気になる児については、今までの同様、お互い早期の情報提供を心がけ、情報を共有し、支援体制を確保したい。 ・通常級にいる発達障害児が学校で生活しやすい合理的配慮
函南町	<ul style="list-style-type: none"> ・通所機関を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な児の最新情報 ・児童精神科の拡充 ・中学生・高校生の受け入れ先の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス等の支援を活用していない児の数や現況の共有 ・通常学級へ進学する子に対する支援見解の統一化 ・まだまだ、発達障害児に対する理解に差があり、間違った対応をされている方も多いように思う。

アンケート2：伊豆医療福祉センターでの取組に関して【患者情報の提供・情報共有について】

	それぞれの際の機関の立場で本取組に協力できることはないか？	左記における課題はないか？
伊豆医療福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科医が健常発達を理解することにより不必要な紹介を減らす。 ・育児相談会への医療分野からの参加を増やす。 ・医師が考えることを施設・学校関係者に話すことの共通理解の説明 ・反対に他施設、学校の関係者が医師の説明でわからないうところを聞く場を設ける。相談にも応じたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、施設から個別相談に応じたいが、なかなか時間がとれない。いくつか代表例を持ち寄り（順番に）、それに医師が回答する。紙面上か、Web 回答ができればよいと思う。個人が特定できないように加工のうえケースを蓄積・分類していければ、そのケースから似た症例ができれば、考え方を蓄積していく。 ・個別相談に対しては、できるだけ教師の負担にならないように、16 時台に当施設で対応（ケース会議）していきたい。 ・市、町、地域で個別の相談会を企画できないか。
相談支援事業所リバルテ	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果（保健師の意見書）を持って、何のために受診したのかを予約時に明確にしてはどうか。福祉サービス利用であれば、利用予定事業所の情報なども医療に渡せるようにする。 ・初診時だけでなく、養育者（保護者）の力が不足する場合は、情報提供を代行できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口の明確化
県東部発達障害者支援センター（アスタ）		<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有には、保護者の意向を十分に考慮する必要がある。 ・情報共有に関する関係機関に対するクレームや、情報を伝えてほしくない、という保護者からの相談もある。 ・一元的にルートを決めてしまうことや、同意なく情報を流すことには問題がある。 ・保護者が適切に判断、選択できるように、丁寧な支援が必要
静岡県事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から、児童の学校での様子などの情報を提供する。 ・保護者の了解を得て、子供の学校での様子を見ていただきたい。 <p>< 葦山小学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の疑いがあり、医療機関での診断を希望する児童について、発達障害者支援コーディネーター等へその旨を相談（情報提供） ・既に医療機関を受診している発達障害児についての情報提供（学校、学級、発達障害通級指導教室での様子 等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関からの情報を学校現場にも欲しい。 <p>(個人情報ではあるが、子供の指導や支援に関わることについては保護者に理解を求めたい。)</p> <p>< 葦山小学校 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関での診断を希望する児童数が多く、その判断に時間がかり過ぎている。 ・現在は、特に依頼があったものしか情報提供をしていない。

	それぞれの機関の立場で本取組に協力できることはないか？	左記における課題はないか？
伊豆の国特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> 各社のコーディネーターやスクールカウンセラーから学校での授業参加状況の資料を提供する。 各市町で学校に対して指導助言を行っている教育支援センター（就学支援委員会、子育て支援課、コーディネーターを含む）からこれまでの様子を医療機関に伝えてもらう。 個別の教育支援計画の記載内容の充実（相談歴、相談内容の記載など） 	<ul style="list-style-type: none"> 学校数が多いため、医療機関が直接学校とつながるのは負担が大きい。 個人情報扱いが課題 共通フォーマットがあると、必要事項を整理して伝えやすい。
伊豆市子育て支援課	<ul style="list-style-type: none"> 事前に情報提供することは可能 受診希望者からの依頼があれば、希望者の基礎情報を医療機関へ情報提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の同意はどかが確認をするのか、情報提供の依頼は医療機関からか、保護者からなのか？情報提供に必要な内容（項目）はどのようなことか。（それに関連して所定の様式があるのか） 医療機関など関係機関への情報提供の可否について、ルールが必要
伊豆の国市福祉事務所	<ul style="list-style-type: none"> 学校、本人、家族の同意が得られれば、当市で実施している巡回相談の結果を提供することができると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関につなげなくてはならない選別のラインの判断が難しい。児の年齢や環境による遅れもあるので、グレーゾーンの子の判断に困っている。
健康づくり課	<ul style="list-style-type: none"> 発達に気になる児については、ケースカンファレンス等で優先度に応じて振り分けをして、医療機関受診を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 病院内でトリアージするだけでなく、外部関係機関とやり取りすることができているワーカー役のスタッフが必要
子育て相談センター	<ul style="list-style-type: none"> 家族に承諾を得て、病院に家庭での生活状況について情報提供できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対応できる職員が限定される。 個人情報の扱いについて定めが必要ではないか。 どのような形で提供するか（文面 or 口頭いずれか？） 発達相談の結果を保護者に紙面で返しているが、IQやDQまでは載せていない。病院へ提出をするとするとすべて記載すべきだと思うが、どのような形で提供すべきか。 定型の書式があると記入しやすい。（市町の負担にならない程度）
函南町福祉課、子育て支援、健康づくり課	<ul style="list-style-type: none"> 窓口に来て、障害福祉サービスを使いたいという相談であれば簡単な聞き取り調査は可能 発達相談にて実施した検査結果を提供する。 なぜ、医療機関を紹介するに至ったかを事前にお伝えする。 受診に同行し、直接状況を伝える。 保護者からの申し出があれば、発達相談の結果、健診の結果などの情報提供は可能 	

アンケート2：自由記述(主なもの)

	それぞれの機関の立場で本取組に協力できることはないか？
伊豆医療福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生以降の不登校については、伊豆医療福祉センターで可能なことを振り分けているので、精神科の対応が迅速にいただけるとありがたい。 ・母親の不安が Highly sensitive child の言語発育を遅らせている印象があります。 <p><課題> この理解による経過を見てもよい症例を抽出必要があります。同様に、不安解消と父親の積極的参加（父親を褒めて引っ張り出す）ペアレントトレーニングの実地が必要です。</p>
静岡県教育事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に対する学校体制の強化。（例えば、発達障害児を受けもつ学級担任の障害に対する理解が深まれば、医療機関を頼る場面は少なくなると考えている。また、福祉分野での家庭へのサポート体制の充実も同様。現状は、学校での対応の不備がもとで、発達障害の症状が悪化しているケースが少なくない。） <p><課題> 特別支援教育に対する学校体制の強化には、地域や市レベルでの取り組みが不可欠</p>
伊豆の国特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関と学校の役割を周知し、保護者への受診を勧めやすくする。 (医療機関ではどんなことをしてもえらえて、学校は何をすればよいか。) <p><課題> ・受診希望者の増加 ・安易に受診を勧めるケースでの保護者とのトラブル ・頑なに受診を拒むケースへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校のセンター的機能（取組みや相談例）を広く周知する。 <p><課題> 現在はコロナ禍のため、外部の方を校内に入れることに制限がある。</p>
伊豆市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自立支援協議会 ことも支援部会の活用 → 相談支援専門員や教育関係者からの意見をきき、支援の方向性を検討し、当面の支援を提案する。 ・福祉相談センターの活用
伊豆の国市	<ul style="list-style-type: none"> ・健診や健診事後教室などで紹介（情報提供）できる。 <p><課題> 優先的に紹介する基準の統一がないと紹介ケースにばらつきがでる。（各部署で差が大きくなりたくないような基準が必要）</p>
函南町	<p>保健師や心理士等の一筆を意見書作成までの代用とする。</p> <p><課題> 実際、一筆書いていただけるとか？</p>